



# 躍進 (やくしん) 誌

題字は帯解寺住職 倉本 堯 慧 師  
くらもとぎょうけい

平成23年 第16号  
編集発行

おぎたよしお後援会

〒630-8431 奈良市窪之庄町350  
TEL0742(61)6300

## 六月議会で代表質問

### 奈良県の医療体制について!

#### 県立医科大学の役割

萩田議員は、かねてより県民の健康を守る医療問題に大きな関心を寄せており、今回の代表質問でも中心的テーマとして取り上げました。

高度化する医療を支えるのは、言うまでもなく医師や看護師等の皆さんです。その意味で県立医科大学の果たす役割は重要で、これまでも①医師の養成②医学研究③病気の治療を中心に運営されて来たところですが、平成



平成23年6月議会で代表質問に立つ!

二十二年度の卒業生・九十二人のうち、研修先に県立医大等県内の病院を選択した卒業生は三十九人に過ぎません。つまり六割が県外へ出てしまっており、そこで臨床研修を終えた卒業生が奈良へ戻ってくる可能性は極めて低いのです。萩田議員は、この状況を何とかして改善しなければ、県の医療体制を構築できないと考え、荒井知事に是正を求めました。

#### 県立奈良病院のあり方!

臨床研修を受けている傾向となつていくことから、地域枠入試の効果に期待したいとしました。

平成二十一年度に策定された「地域医療再生計画」の中で、県内に二つの高度医療拠点病院を設置するとし、北和地域で県立奈良病院が位置づけられていきます。ところが、地元には十分な説明がないままに、移転ありきで計画が進んでいると考える萩田議員は、県が開催の地元説明会に参加しました。そこでの意見は、

県立奈良病院の現在地である平松地区の身近な医療がどのように確保されるのか、また移転先の六条山地区の環境にどのような影響を及ぼすのかというものでした。道路が狭いうえバス便も少なく、ヘリポートの騒音被害が予測できないからです。

萩田議員は、移転に際して跡地の平松地区にどのような医療体制を残すのか、さらに北和地区(奈良市・生駒市・



北和の拠点病院と位置づけられる県立奈良病院

大和郡山市)三十二病院との具体的な連携策。さらに奈良県病院協会と役割について合意形成しながら、中長期的な事業計画や収支見通しを提示すべきとしました。

荒井知事は、新県立病院を臨床研修の場として選択されるよう研修体制が充実した病院にしたいとの決意を示し、そのためにも、平松地区の身近な医療の確保、六条山地区での病院整備を地元の理解を得ながら進めたいとしました。新県立奈良病院を高度医療の拠点病院として機能させるには、地域医療機関との役割分担が重要との観点から各医療機関と協議を進めるため、北和地域医療連携協議会を設置するとともに、県病院協会から①救命救急体制の確立②がん医療における拠点整備③医師のキャリアアップ支援について要請されていると答弁しました。



奈良県議会議員 萩田 義雄

後援会の皆様、今春の県議会選挙で四選を果たすことが出来、有り難うございました。先の東日本大震災では多くの尊い命が失われ、今また台風十二号により県南部で予測を超える死者・行方不明者を出しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りしつつ、一刻も早い復旧と復興へ国、県を挙げて対応せねばなりません。比較的に災害が少ないと言われる奈良県でも、災害はいつ起こるか分かりません。皆様の安全を守るため、防災危機管理体制の更なる構築へ取り組んでまいります。



萩田義雄後援会長 中室 美壽男

日頃より、萩田義雄奈良県議会議員をご支援いただき、そのお陰をもちまして、先の統一地方選挙で四期目の当選を果たすことができました。感謝申し上げます。東日本大震災は、私たちに地域の大切さを思い知らせることとなり、これまで以上に政治の役割が重要になっていきます。萩田議員の精力的な活動に未来を託し、ともに支え合って安全で安心できる奈良市の実現をめざしたく、各位におかれましては、支援の輪を更に広げていただきたく宜しく申し上げます。

#### ◆おぎたよしお後援会◆ 平成22年度収支報告

●収入	
前年度繰越金	132,317円
会費	6,473,895円
会議費	3,017,000円
後援会会員会議費	777,000円
雑収入	103円
政治団体からの寄附	500,000円
収入合計	10,900,315円
●支出	
(1)事務所費	2,941,219円
内訳	
事務費	1,278,383円
人件費	1,260,000円
備品・消耗品費	376,320円
光熱費	26,516円
(2)政治活動費	7,060,876円
内訳	
会議費	2,959,392円
後援会会議費	461,906円
渉外費	1,771,000円
交際費	1,668,578円
政治資金パーティ開催事業	200,000円
(3)機関紙発行その他費用	760,314円
内訳	
躍進印刷代他	279,200円
通信費	481,114円
21年度繰越金	137,906円
支出合計	10,900,315円

# 住んで良かったと思える奈良県を！

三月十一日の東日本大震災を機に、地域の大切さを再認識した荻田議員は、六月定例議会の代表質問で、県民の皆さんが「住んで良かった」と思える奈良県づくりに進める上で、必要な施策の一部について奈良県の姿勢を質しましたので、その概要をご紹介します。

## 東日本大震災支援の広報体制

東日本大震災で被災された方々は、死者・行方不明者が約二万三千人、避難や転居を余儀なくされている方が十二万四千余人おられる現実をしっかりと受け止め、奈良県も医師、看護師、保健師、警察官、市町村職員がいち早く出動し被災地支援に尽力、さらに平成遷都一三〇〇年祭な

らに平成遷都一三〇〇年祭などでも、どこで検出された決算余剰金三億二千万円を被災三県に寄付するなど他県に比べて遜色ない支援態勢を整えているにもかかわらず、県民の方々への広報が行き届いていないと感じた荻田議員は、広報のあり方について質しました。



海岸から3km以上も離れた教会まで流されたクルーザー(石巻市)

これに対して荒井知事は、震災発生直後からオープン取材が可能な環境を整え、ホームページや県政広報番組、県民だより、記者会見等で周知を図っているものの、目立つ広報を意識していないことや

関西広域連合が、加盟する各府県ごとの支援を広域連合として集約した広報戦略を展開したことで、マスコミの注目を集めたものと答弁しました。

## 企業誘致と税収の確保！

平成二十年九月のリーマンショック以降、世界的な景気後退の影響により、奈良県の県税収入も大幅な減少を余儀なくされ、行政運営に支障を

きたすのではと心配する荻田議員は、荒井知事が税源涵養策として推進してきた観光振興や企業誘致、県内消費の拡大、雇用促進等の効果、とり

わけ企業誘致による法人関係税の税収状況、さらに、観光振興の中心施策となるホテル誘致の現状及び見通しについて質したところ、平成十九年から二十二年までの四年間で知事が公約した百件の企業誘致は、百一件の立地を実現したことから評価すべき実績でした。それに伴う法人県民税と法人事業税は四年で約五十一億五千五百万円、不動産取得税は約一億五千万円でした。今後は、個別企業税収の前年

## ホテル誘致の現状と見通し

荒井知事は、平成十二年に県営プール跡地にホテルを誘致すると表明、平成二十二年一月からは、ホテルを核とするまちづくりに取り組んでいます。しかし、厳しい経済情勢の中で誘致に応じる事業者が現れない現実もあります。荻田議員は、奈良県の観光振興に大きく影響するホテル誘致が、どのような状況にあるのか、果たして見通しがつかないのか、荒井知事の姿勢を質しました。

知事は、具体的な検討、協議までには至っていないとし、難航していることを認めつつ立地の良さを事業者に説明していることとしました。その上で当該用地を交通ターミナル化することで交通の拠点として位置づけ、高齢者や若者が集い、憩い、賑わいのある場として空間整備し、修学旅行生が半日滞在しても対応できる奈良らしい雰囲気を用意した新しい集客施設として整備し、受け入れた観光客が周辺観光地に溢れ出すような良質なホテルの立地をめざしたいと答弁しました。



企業誘致で奈良県に立地した大阪の印刷会社



ホテル誘致が進まない中、放置されたままの県営プール跡地

## 京奈和自動車道の進捗状況

企業誘致を推進する上で最適な候補地として三つの条件があります。

- ① 高規格道路に面している。
- ② 港湾、空港からの良好なアクセスがあること。
- ③ 駅ターミナルや鉄道、バスなどの公共交通機関が整備されていること。



西名阪道路への接続が間近となった京奈和自動車道

奈良県の場合は、京奈和自動車道沿線が好適な立地条件となります。同道路の整備が企業誘致のカギを握ると考える荻田議員は、その進捗状況と今後の整備計画について質したところ、知事は京奈和自動車道は、企業立地を促進する上で極めて重要な道路であることから、①二十三年度に大和高田バイパス、橿原南御所インターチェンジを供用。②二十五年度に西名阪道に接続するジャンクションを供用。③二十六年度に橿原南御所インターチェンジ、御所南インターチェンジまでの供用を予定し、二十八年度までに御所南インターチェンジ、五条北インターチェンジまでを供用し、供用率を全国並みに引き上げるとしました。

# リニア奈良駅設置へ向けて

国土軸として開業から四十七年にわたり、わが国の発展を支えてきた東海道新幹線も施設の老朽化が見え始めたため、そのバイパス機能や東海地震等への備えとしてリニア新幹線の早期実現が求められています。

国土交通省は、東京―大阪間を一時間で結ぶ中央新幹線の基本計画が整備計画へと決定されました。これにより主要な経過地の一つに奈良市付近が明記されたことは、奈良県にとって大きなチャンスが到来することになると考える萩田議員は、乗り越える課題も多いことから荒井知事の考えを質しました。



リニア新幹線奈良駅の設置は、奈良県の活性化に不可欠。(設置が予想されるJR平城山駅周辺)

荒井知事は、基本計画から四十年を経て整備計画へ格上げされ、後は工事施工認可を待つばかりとなったと答弁、これまで新幹線や高速道路などの国土軸から外れてきた奈良県にとって、県民生活の領域拡大と地域振興に多大な貢献をするものと考え、奈良市付近に設置される新駅を結節地点として、既存の鉄道や高規格道路等の交通インフラを利用しながら、県南部や紀伊半島までも視野に入れた高速輸送機能を期待しているとも述べた。

駅の位置や構造等については、JR東海と関係自治体の調整によりありますが、駅建設費用が中間駅について全額地元負担の方針は受け入れ難く、話し合いが必要と申し入れたところだ。

# JAならけんの役割！

平成十二年四月に奈良県下のJAが「JAならけん」に統一され十二年が経ちました。効率性を高める目的は達成されたと思われませんが、農協本来の営農指導、購買について事業規模が縮小し、農家のJA離れが進行し、今やJAは共済や損保・銀行業務に特化してしまいました。

JAならけんの合併促進は当時の奈良県知事が主導し実施したのですが、現在、営農指導や購買事業はどのような状況になっているのか、また、一本化以降、これまでの支店統廃合が組合員の十分な理解を得ながら進められたものなのか、さらに、県は毎年JAの検査を実施しているが、経営状況がどうかについて報告を求めました。

# 農地・水・環境保全の向上

民主党政権下、鳴り物入りで農家への戸別所得補償制度が実施されましたが、事務の複雑さや地主、作業農家への補償問題など課題が山積している状況です。

農家にとって必要なことは、安定収入を得るための農業施策や品種改良、構造改善補助整備事業、流通機構のあり方等を見直し改善することです。奈良県では、平成十九年から



地域の環境向上への取り組み

農地・水・環境保全向上対策事業を推進してきました。こ

これに対して、農林部長は組合員の営農・販売ニーズに対応すべく、営農指導専任担当者七千人、農家を訪問し二一歳の把握や情報提供を行う営農経済渉外員を三十一人配置し体制強化を図っているとし、さらに、農業大学校で営農指導専任担当者を百三十五人、また、専任担当者を養成指導するインストラクターを三十五人、育成したとしました。営農に必要な物資を供給する購買事業については、

低コスト資材の確保やスケールメリット化を図るための重点奨励商品への集約による安価供給に努めるとしました。統廃合による経営の合理化が組合員に対するサービスの質的向上につながるよう求めると答弁したところです。

# 農作物の品種改良の促進

の事業は、農地や農業用水等を地域ぐるみの共同活用で適切に保全管理し、質的向上を図る組織に奈良県が国や市町村とともに支援するもので、平成二十二年時点十七市町村の百四十一組織が、約三千五百ヘクタールの地域で資源の保全に取り組んでいます。とりわけ耕作放棄地対策として成果をあげたものの、平成二十三年度で終了するため、どの程度の効果があったのか、

奈良県の主要野菜であるイチゴは、かつて全国三位の生産量を誇っていましたが、長い栽培期間、つらい作業姿勢、新規参入者の不足、高齢化、病害虫被害、出荷組織の弱体化など様々な要因で有力品種である「あすカルビー」でも作付面積が減少しています。

その一方、旧奈良市農協では、平成五年に静岡県の農家にパテント料を支払い、安定した収穫が見込める「あきひめ」の生産に着手、今では市内農家の八割までが収穫量が多く美味でつくりやすい「あきひめ」を栽培しています。

県は、イチゴを奈良県のリーディング品目に指定し、新たな担い手の育成、安定供給、新品種の育成強化に努めていますが、他品目を含めた品種改良をどのように進めているのか質しました。

今後、水路や農道保全へどのような施策を講じるのか質しました。

農林部長は、本事業が非農家も含めた地域ぐるみの活動により、農地や農業用水の保全にとどまらず、水路や道路沿いへの桜等の植栽、水路の生息環境を改善しながら川の復活をめざす活動など、地域の環境向上に向けた取り組みも芽生え、地域の活性化につながっているとしました。

品種改良は奈良県農業総合センターの高い技術と豊富な経験を持つ研究員を中心に進めており、産地間競争が激しい中で奈良県オリジナルの新



高い技術力の奈良県農業総合センター

# ホタルのまちづくりが本格始動



ホタルを育成するビオトープ

富雄地区自治連合会副会長 飯塚 晃弘

富雄地区で「蛍の飛び交うまちづくり」をめざしたのは、未来を担う子ども達に何ができるかを議論した結果でした。その実現に向け萩田議員

員のご協力で富雄川の水質検査をしたところ、エサとなるカワニナの育成は不可能とされましたが、近隣の三松地区にカワニナが存在し、蛍も飛び交っていることが分かったことから、同地区で休耕田を所有する富雄地区自治連合会会員の松田さんのご好意で休耕田をお借りし、蛍育成に必要なビオトープを完成させ、今はカワニナを育成しながら、蛍の小屋を建築し幼虫を移植したところ、すでに10匹程度が飛び交っていることが確認されました。今後は周辺の環境を整えつつ学びの場として管理、運営して参ります。4月には富雄北小学校運営協議会が発足し、子ども達を地域が支える体制が確立、6月には「蛍によるまちづくりと里山保全活動」が、県の地域貢献事業育成施策に選定されました。これも萩田議員のご支援の賜物と感謝するしたいです。

# 写真で見る荻田議員の活動ぶり!



■奈良教育大学前の歩道で、高齢者の方が下水道のフタで転倒されケガをされました。原因はフタから飛び出したボルトです。改善を求める陳情に荻田議員は土木事務所へ改善を要請、フタそのものをコンクリートでふさぎました。



■興隆寺町の地滑り対策は、昨年12月中旬より片側通行となっていました。平成23年8月上旬から本来の通行形態に戻りました。

■6月20日、下狹川町の佐野毅様の山林が崩落し下を流れる水路が土砂に埋もれたため、放置すると土石流の発生で水田や民家に被害が及ぶとの判断から、佐野様は土砂の移動とブルーシート設置をされ、その後、連絡を受けた荻田議員も駆け付け、県の関係部局と対策会議を開催し整備に向けた取り組みが始まりました。



6月20日(山林崩落)



■奈良市フェンシング協会会長として、県立朱雀高校で開催された第65回奈良市市民体育大会春季大会のフェンシング種目の協議会役員として参加する荻田議員。

■県立奈良病院の建て替えについて、地域住民の皆さんへの説明不足を感じた荻田議員は、担当部長を始め関係する職員を京西公民館平松分館等に招き説明会を開催しました。席上、様々な意見や質問が出されましたが、県側の回答は不十分なものでも説明責任を問う声も出るほどでした。荻田議員は地元の方々のご意見を県議会にお届けします。



6月21日(佐野様、応急措置)



6月22日(荻田議員等視察)



6月25日(整備へ向けて)



■梅で知られる月ヶ瀬ですが、梅と桜、紅葉が混植されている地域がありますが、近年、桜にテング染病が発生したこと、梅との混植状況も含めた実態調査に入りました。



■富雄小学校で開催された「子どももふれあい夏祭」に招かれ、子ども達とシャボン玉に興じる荻田議員



■地域医療体制整備促進特別委員会にて県立医科大学附属病院を訪れ、高度救命救急センターにおける外来受診患者や入院患者の状況を視察するとともに、高度医療拠点病院開設及び民間と県立病院の連携医師・看護師不足の現状について確認しました。



■薬師寺の東塔が百年ぶりに大修理されます。それを前に国宝東塔大修理着工法要が営まれ、歌舞伎の市川團十郎さんの「三番叟」が奉納されました。荻田議員も参加し工事の無事をお祈りしたところです。

## おぎたよしお略歴

- ・昭和22年12月7日生 63歳
- ・奈良県立奈良商工高等学校卒業
- ・昭和58年、奈良市議会議員に当選(3期)  
この間、総務財政委員長、議会運営委員長、副議長等を歴任。
- ・平成7年、奈良県議会議員に初当選。  
以来、厚生常任副委員長、幹線交通対策特別副委員長、総務・警察委員長、議会運営委員長等を歴任。
- ・平成22年、自民党奈良県連 総務会長に就任。
- ・平成23年、奈良県議会議員に4選。

「ミニ集会」開催のお願い  
荻田義雄さんを招いてミニ集会を開いてみませんか。何人からでも参ります。  
☎074-216-16300

## 告知板

## おぎたよしお後援会 メール会員募集中!

ホームページでご入会いただいた皆様には、ご指定のメールアドレスに身近な話題を中心にメールマガジンを月1回程度送らせていただきます。既に後援会にご入会いただいている会員様もぜひメールアドレスをご登録ください。

おぎたよしお公式ホームページ <http://www.ogita-yoshio.com/> 携帯電話はこちらから

